



## JAUW の一断面～地理学科卒業生たちは今～

JAPANESE ASSOCIATION OF UNIVERSITY WOMEN

東山 セツ子

JAUW は、女性の高等教育の推進・地位向上、国際理解・親善を目標としています。

主な活動の一つとして今日的課題をテーマとする全国セミナーを開催しており、本年度のテーマは「ワーク・ライフ・バランスの実践」です。

JAUW 会員の中、お茶の水地理学会の会員では向後紀代美（11回）、石川良美（17回）、牧島悠美子（前 役付理事、前 教育委員長、18回）、石原淳子（29回）の方々が活躍しています。本年度のセミナーでは、教育委員会（委員長：東山セツ子）は、文部科学省の「女性研究者支援モデル育成」事業の現状と課題というテーマで10月17日に発表の予定です。本年度の調査対象は過去3年分、文部科学省の採用33機関（含お茶大）です。

以下に、最近2回のセミナーにおける教育委員会発表内容の要約を記しますので、ご参考まで。

<2007年度> 大卒女性と就労一企業で働く女性の実態と大学教育への期待一

教育委員会は、男女雇用機会均等法施行後20年余の現在、企業で働く大卒女性の雇用環境の変化の実態を知るため、企業へのアンケート調査を行った。労働市場における大卒女性の増加、企業内役職者に占める女性の比率の向上など女性の進出はめざましいが、企業が男女を平等に処遇しているとは思えなかったからである。（中略）調査結果では、企業が大卒従業員に期待を寄せ、採用、賃金、研修機会などで男女差別はしていないと答えているにもかかわらず、女性が雇用形態、賃金、職域、管理職等について男性とは平等に処遇されていない実態は明らかであった。

これを受けて、企業に対して、女性の活用を促すためのポジティブ・アクション（積極的取組み）を採ること、育児を理由とした早期退職をなくすため、男女ともにライフ・ワーク・バランス（生活と仕事の両立）が可能な働き方の保障を提言し

た。一方、政府に対しては、労働時間短縮、女性に対する間接差別の禁止、最低賃金を引き上げ、非正規雇用の待遇改善などについて、法的措置を取るよう提言した。企業は柔軟な思考力、社会的常識、コミュニケーション能力をもった人材を求めていることから、大学教育に対しては参加型の主体的学習方法に力を注ぐよう提言した。（会報228号より）

<2008年度> 大学・研究機関における職場内保育施設の利用状況一男性の育児参加に向けて一（事例報告の部）

職場内に保育施設を設置している大学・研究機関で働く教職員や学生が仕事と育児をどのように調和させているのか、育児を中心としたワーク・ライフ・バランスを実現するうえで、解決すべき問題点を探り、男性の事例を探す目的で調査（2008年8・9月に訪問及び郵送）した。アンケートは2種類（保育施設利用者、ワーク・ライフ・バランスに関する諸制度に関するもの）を実施し、17カ所から回答を得た。

利用者122人が回答。利用の理由は「安心して保育を任せられる」が最多。施設への申込、子の送迎等の世話は大半を母親が担い、育児の負担は非常に重い。諸制度の回答は17。経営は委託が11、直営は5。補助金の至急は10カ所。育児休業中、大半は無給。そこで、諸制度の拡充や独自の制度の導入、制度を利用しやすくする事が必要。柔軟で多様な子育て支援が求められる。

男性の育児休業取得の2例は以下のとおり。（以下略。事例は東大職員）（会報231号より）お茶大保育施設のいずみナーサリー（施設長：富永典子教授、主任和市和子氏）のご協力に感謝します。

ひがしやま・せつこ 第8回生

（社）大学女性協会（JAUW、旧名称：大学婦人協会、1946年設立）理事